

教科名	美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	1年	全	組	
単位数	週当たり1.5時間	使用教科書 補助教材等	美術 1(光村出版株式会社)						
担当者	清水恵郁 高原尚司		資料集 感じる表す美術						
学習目標	造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。 			
各観点の授業内 評価方法等	学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート		デザインの下描き等のワークシート 作品			授業態度(話を聞く姿勢、提出物、持ち物)			
学期末の 各観点比率(%)	30		35			35			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	<p style="text-align: center;">「色彩の学習」</p> 色相環や色の三要素とその相互の関連について理解し、軽重、寒暖の感じについて学ぶ。それらをもとに混色や重色による色の作り方を学ぶ。美しい配色や、イメージに合った配色を意図的に工夫できるようにする。					10	十二の色相環	
	5								
	6	<p style="text-align: center;">「漢字からのイメージによる平面構成」(デザイン)</p> 漢字をもとに自由にイメージさせ、発想を広げる。そのイメージにふさわしい形や色の表現を工夫する。 レタリングの要領を知り、基本書体が正しくかけるようにする。 用具や材料の特徴を生かした楽しいイメージのデザインができるようにする。					10	絵文字作品	
	7								
8									
2	9	<p style="text-align: center;">「遠近法・図法」</p> 物事が立体的に見える原理や法則を学び、理解する。					2	ワークシート	
	10	<p style="text-align: center;">「こいのぼり 制作」(工芸表現)</p> こいのぼりというテーマで風についてのイメージを膨らませる。 支持体としての和紙の特徴をしっかりと掴み、水彩の効果を生かして表現を試みる。造形に対する創作の工夫ができるようにする。 日本の伝統的な文化・表現に触れてみる。					10	工芸作品	
	11								
12	<p style="text-align: center;">「古代の美術」(学年末のテストに向けて)</p> 古代の美術から(美術の成り立ち)東西の文明の始まりまでの美術の流れを学習。					3	ワークシート		
3	1	<p style="text-align: center;">「立体でとらえる」(粘土による表現)</p> 量や動勢など立体を形成する要素に気づいて表現する楽しさを味わう。いろいろな角度から対象を観察し、立体として把握できるようにする。材料の特性を理解し用具を適切、安全に使用して制作する能力を養う。自己の制作意図、作業手順と作業内容を明確にし、計画性をもって作品制作を行う。					10	学年末考査	粘土作品
	2								
	3								

教科名	美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	2年	全 組		
単位数	週当たり1時間	使用教科書 補助教材等	美術 1(光村出版株式会社)・美術 2.3(光村出版株式会社)						
担当者	二藤由布		資料集 感じる表す美術						
学習目標	造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。 				
各観点の授業内 評価方法等	学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート		デザインの下書き等のワークシート 作品		授業態度(話を聞く姿勢、提出物、持ち物)				
学期末の 各観点比率(%)	30		35		35				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	<p style="text-align: center;">「モダンテクニック」</p> 筆や鉛筆等の画材に頼らず偶然にできる模様を楽しむ。 モダンテクニックの技法を体験を通して表現の幅を広げる。					2	作品	
	5	<p style="text-align: center;">「水墨画」</p> 筆の扱い、墨の濃淡による表現効果の違いを何回かの演習を経て理解する。 また、過去の水墨画等を模写し、表現の技能を身に付ける。 見慣れた風景を、空気遠近法の見方で意識的に観察することで新鮮にとらえてみる。 自分自身の感覚や実感に基づく感動を素直に表現することの大切さを理解する。					6	墨絵作品	
	6								
	7	<p style="text-align: center;">「美術史・仏像」</p> 仏像の種類や作り方について、修学旅行の事前学習を兼ねて行う。仏像は信仰や礼拝の象として作られたものではあるが、美術としての美しさを細部にも目を向け鑑賞する。					2	ワークシート	
	8								
2	9	<p style="text-align: center;">「空飛ぶステンドグラスアート」</p> グラスデコ絵の具に触れてみる。 性質を理解して、鳥や飛行機等の空を飛ぶ物をイメージして題材を練る。 校内のガラスを装飾する。 1年次に学んだ配色や混色の応用として行う。					10	ステンドグラス作品	
	10								
	11	<p style="text-align: center;">「絵画鑑賞-レオナルド・ダ・ヴィンチとルネサンス」</p> 三大巨匠について学び、西洋美術史に対する理解を深める。 また、なじみある絵画や画家を授業で取り上げる。そこに秘められたストーリーや画家の思いを理解しようとする豊かな心を養う。					5	ワークシート	
12									
3	1	<p style="text-align: center;">「鑑賞 仏像の成り立ち」</p> 仏像の成り立ちと近代美術の理解そして表現の基本の修得を、授業における理解度をふまえ確認する。					4	ワークシート	
	2	<p style="text-align: center;">「漫画」</p> 現代の日本文化とも言える漫画について学び、成り立ちについての理解を深める。 即興性を活かし遠景、近景を意識し漫画として表現する。形態やストーリーにあった発想、即興性などの視覚的構成力を養う。					6	学年末考査	漫画
	3								

教科名	美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	3年	全組		
単位数	週当たり1時間	使用教科書 補助教材等	美術 2.3(光村出版株式会社)						
担当者	高原尚司		資料集 感じる表す美術						
学習目標	造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。 				
各観点の授業内 評価方法等	学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート		デザインの下描き等のワークシート 作品		授業態度(話を聞く姿勢、提出物、持ち物)				
学期末の 各観点比率(%)	30		35		35				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	<p style="text-align: center;">「石粉粘土」</p> <p>思春期という時期を踏まえ、自分の性格や特徴を受け入れ認めていくために自分をもとにしたキャラクターを考える。自己分析を行い、自分の特徴を表したキャラクターを粘土で作成する。そのキャラクターが潜んでいそうな場所を校内で見つけ、風景と一緒に写真を撮る。</p>					7	粘土作品・写真提出	
	5								
	6								
	7	<p style="text-align: center;">「印象派・ゴッホ・ジャポニズム」</p> <p>印象派の画家について学ぶ。ジャポニズムを取り上げ、日本画と洋画のつながりや影響について考察する。</p>					4	作品	
	8								
2	9	<p style="text-align: center;">「藍染」</p> <p>草木染について学ぶ。絞り染めの技法について学び、自分なりの文様を考えて、藍を染料としてハンカチを染める。</p>					6	作品	
	10								
	11	<p style="text-align: center;">「飲料のデザイン」</p> <p>牛乳パック型の新飲料をデザインする。 企業の企画・開発担当になった気分でオリジナル飲料のパッケージデザインとキャッチコピーの考案をする。</p>					8	作品	
12									
3	1	<p style="text-align: center;">「パブロ・ピカソ」</p> <p>画家ピカソについて鑑賞を行う。また、デッサンの基礎としてゲルニカを鉛筆で表現する課題を行う。</p>					4	ワークシート	
	2	<p style="text-align: center;">「鉛筆デッサン・静物」</p> <p>形体のとらえ方、明暗、陰影の表し方、比例、均衡、動静など構図を考え立体感を表現する。また材料、用具の適切な使用法を学ぶ。</p>					6	学年末考査	作品
	3								